



第二號



官許
琵琶湖新聞

定價三錢五厘

明治六年第三月

西垣文庫
文庫10
7374
2



緒言

新聞ノ徳タルヤ大ナリ内知見ヲ闢キ外事業ヲ施シ
 不知不識文明ノ域ニ進ミ開化ノ室ニ入り上下言路
 ヲ通ジ勸懲善惡ヲ判ス故ニ
 官許シテ天下ニ公ニスル所以ナリ庶幾ハ四方ノ君
 子上公裁ヨリ下俚言ニ至ルマデ縷々記載シ吾社ニ
 投入シ玉ハンコヲ是今日ノ必務ニシテ開明ノ徳ニ
 報ズ所以ナリト爾云

西垣文庫



新聞第二號

自今諸布告御發令毎ニ人民熟知ノ為メ凡三十日
 間便宜ノ地ニ於テ令揭示候事

但管下エ布達ノ儀ハ是迄ノ通可取計從來高札
 面ノ儀ハ一般熟知ノ事ニ付向後取除キ可申事

明治六年二月

太政官

○

府縣へ

絞罪器械別紙圖式ノ通改正相成候間各地方ニ於テ
 右圖式ニ從ヒ製造可致事

明治六年二月二十日

太政官

○各府縣ニ於テ有志ノ輩學資ノ為メ献金寄附等致シ候者其都度々々精細ニ届ケ出ベク尤モ是迄已ニ寄附献金致シ候者未届出向モ候ヘバ是又至急取調届出ベク此段及布達候事

明治六年二月十日

文部卿大木喬任

○

近衛局へ

神官月給渡方ノ儀ハ是迄第二常備金ノ内ヲ以綴替置追而受取方申出候向モ有之區々相成居候ニ付向後置米金ノ内へ組込伺出右ヲ以渡方取計可申事但官費支給無之神官ハ此例ニアラザル事

明治六年二月十日

大藏大輔井上馨

○諸宗教導職並試補中ノ者共説教ノ節佛教交説ノ儀上旨ニ抵悟ノ趣ヲ以差止候向モ有之哉ニ相聞候処右ハ綱領三條ヲ體認ノ上宗義交説教導候儀ハ勿論ノ筋ニ付停止ニ不及候条此旨為心得相達候事

明治六年二月十日

教部省

○神官僧侶ニ不限三條ノ綱領ニ基キ布教筋有志ノ者有之候ハゞ一般教職ニ可被補候条各地方官ニ於テ人材取糺シ相當ノ等級ヲ以テ薦擧申出ベク此旨相達シ候事

明治六年二月十日

教部省

高島郡海津東町

松井又十郎

右之者儀大津仲保町木戸甚兵衛外三人ヨリ貸金滞
出入出訴ニ及ビ吟味ノ上身代限り申付ルニ付若シ
松井又十郎へ掛同様ノ願有之者ハ来ル四月廿七日
迄ニ可申出右日限過去リ訴出ルニ於テハ一切取上
無之間其旨可相心得事

右揭示スル者也

明治六年二月廿七日

滋賀縣

右新聞工記載ノ儀別段御達ニ依テ廣告ス

○

甲賀郡上朝宮村

荒木文助

官町村

中川常吉

勅使村

植田平助

黄瀬村

澤田喜平次

右ノ者共大坂府准流徒刑ノ者二十二人脱走致シ候
内六人一月廿四日上朝宮村工立越候処怪敷見込
同役共四人ニテ盡力及捕縛候段全ク職掌勉勵神妙
ノ事ニ候依之為褒美金三百足宛遣之候事
右揭示スル者也

明治六年二月

滋賀縣令松田道之

○

府縣へ

壬申第五十八號布告ノ通各地方鄉村祠社掌給料ノ儀ハ是マデ民費課出ノ規則ニ候処自今相廢シ候條人民信仰ニ任セ適宜給與為致可申此段相達候事

明治六年二月廿二日

太政官

○今般別紙兼題相設候条全國一般教導職へ布達可有之事

明治六年二月

教部省

兼題

文体ハ和漢雅俗ヲ論ゼズ一向ニ意ノ達スルヲ要ス

神德皇恩ノ説

人魂不死ノ説

天神造化ノ説

顯幽分界ノ説

愛國ノ説

神祭ノ説

鎮魂ノ説

君臣ノ説

父子ノ説

夫婦ノ説

大祓ノ説

右題辭ノ通大講義以下毎月右一説宛講録本省工差出スベシ訓導以下ハ教院ニ於テ批判可致事

○日新真事誌ニ云硝石輸出ハ軍用ニ關スルヲ以テ

定約中禁制ニ相成リ候処本月一廿八日外務卿副島

種臣ヨリ各國公使へ左ノ通翰ヲ以テ放禁ニオヨバ

レタリ

我國從來硝石輸出禁制ノ儀ハ貴國ト我國ト取結ビ
タル條約中掲載有之候処已後右ノ禁ヲ放シ從價五
分ノ稅額ニ定メ外商品同様輸出差許スベク尤我國
政府ノ都合ニヨリ再度停禁セント欲スル時ハ三十
日前ニ布告ニ及ブベクト云々

○支那曆同治十二年正月十日香港新聞ニ曰古ヘノ
聖人言ルアリ教ヘザルノ民ヲ以テ是ヲ戰時ニ使役
スルハ之レ棄ト謂ベキナリ是則卒ヲ選シ兵ヲ練リ
武ヲ講ジ士ヲ訓シ行陳ヲ演習シテ步伐ヲ曉明ニシ
之ニ示スニ座作進退ヲ以テシ之ヲ導クニ有勇知方

ヲ以テス誠ニ緩ニスベカラザルナリ頃聞ク日本國
兵制ヲ定メ民ニ令シテ自ラ操練ヲ為サシメ務メテ
進攻退守ノ法ヲ明カニセシム然ル後陣ニ臨ムノ時
堅ヲ破リ銳ヲ析キ以テ將ニ百戰百勝ヲ期セントス
更ニ令ヲ國中ニ下シ凡壯丁弱冠以上ヨリ皆軍籍ニ
入レテ勤メヲ 王家ニナサシム一旦事アレバ徵集
シテ征役ニ着クト亦普制ノ美舉ナリ茲ニ於テ乎兵
ヲ民ニ寓シ其國益強ク當ニ萬里ノ外ヲ折衝スルニ
足ルベシ且方今日本國ノ政體ヲ一新スルヤ專ラ富
國強兵ノ方策ヲ興シ海外萬國ト對峙センコトヲ謀ル

手記 活新聞 第二号
竊ニ聞ク近時我中華ニ使節ヲ来シ交際ヲ求ム其心意如何ヲ測ルベカラズ今日ノ形勢ハ昔時ノ倭寇ヲ以テ同日ニ論ズベカラズ豈戒心セザルヲ得ンヤト云爾

○

區々戸長へ

今般諸神社改正ニ付自今出生ノ兒ハ勿論老幼トモ其産土神ノ守札ヲ受所持可致尤從前ノ宗門改同様ノ儀ニ付等閑ニ相心得申間敷事

但守札焼失紛失又ハ死去及他所ニ移轉スル者ハ辛未七月御布告ニ照準致スベク并ニ初穂ノ

儀ハ其者ノ隨意ニ候事

右之通市在區々無洩可觸知者也

明治六年二月 東京府知事大久保一翁

○本月二日新川縣ヨリ報知ニ同縣管下新川郡舟見村ノ農兵左衛門妻津与ト云婦三男子ヲ出産母子共壯健ナル由過日和歌山縣下ニモ三男子ヲ産ミ皆壯健ナル由又神奈川縣下ニテモ一男二女ヲ産タル者アリ双子スラ奇聞トスルニ斯ク數人三子ヲ産ムハ奇中ノ奇ト謂ツベシ或人云フ是レ 朝威赫々万民和育ノ前表ナラン何トナレバ 朝廷ハ陽ナリ臣民

ハ陰ナリ男子多産スル者ハ陽陰和合シテ万民生殖
スルノ理ナレバ吉祥ナラント

○平民ニ門閥アラズト雖モ從來市郷ニ旧家柄郷
士代官或ハ元諸家ノ用達杯ト称シ今ニ其門閥意ヲ
引因循姑息ノ輩往々有之方今四民一途ノ御趣意ニ
テ士モ從前ノ士ニアラズ農工商モ已前ノ民ニアラ
ズ穢多非人モ平民トナシ玉フハ天然自然ノ理ニメ
其徳功人智ノ貴キハ既ニ其徳顯然タリ況ヤ各國御
交親ノ上 皇國綱張人智ノ高キト強兵ヲ以テ 御
國威ヲ立ントノ深重ナル処ハ偏ニ國家保護ノ 御

主意ニシテ難有モ恐レ有ル也然ルニ眼前ノ開化
ヲ知ラズ獨リ我任ニ易ンジテ 御國恩ヲモ知ラズ
文明ノ今日ニ至リ旧習ヲ事トシテ徒ニ名義ヲ誤リ
私心ニ不能ヲ以テ竊ニ誹謗レ加之我意ヲ主張シ竟
ニ其ノ為ス所ヲ知ラズ豈歎ズベケンヤ此故ニ廳ヨ
リ屢告諭 御政化及ビ諸州ノ實形ヲモ知ラサント
普ク布達アレドモ之ヲ真意ニ得ズ只因循ニ襲シ活
眼ヲ開クヲ知ラズ之ガ為メ往々市郷ニ故障ヲ釀
シ或ハ訴訟シ或ハ出納煩雜ノ違論皆其實ヲ行ハズ
頑僻ト明義ヲ正フセザル所以ナリ故ニ今口ニ文明

ヲ唱へ躰ニ開化ヲナスト云凡誠ノ文明ニ至ラザル
時ハ詮ナキナリ仍テ于此門閥ノ意ヲ化セザル人
ハ早ク活眼ヲ開ヒテ時勢ニ感應シ憤發セズンバ自
ラ衰微ヲ招クニ必セリ又 御國恩ニ恐レ有ナリ
故ニ其概歎ヲ述ント爾云 右投書ニ依テ記載ス

○栗太郡第八區贅費ヲ省ン為メ同日祭ニ協議

伺ノ書文

今般百般贅費ヲ省キ有益ノ事業ニ可相用旨懇々御
説諭之趣奉拜承候ニ付各村各社之祭日ニ執行致シ
來候処祭禮區々ニ相成候ヨリ甲ノ祭ニハ乙來リテ

客トナリ乙ノ祭ニハ甲來テ客トナリ互ニ相費ルノ
弊有之今般之御旨趣ニ基キ四月七日

神武天皇遙拜ノ日ヲ以一郡中各社之例祭ト相定候
ハ隣村相互ニ往來ノ冗費無御座ト奉存候既ニ六
七兩區ヨリ致伺出御聞届ニ相成候四月廿七日此日
頃ニ至レバ寂早農業繁多ニ差向キ候ニ付右兩區ヲ
除クノ外一般同日ニ例祭執行仕度此段奉伺候且神
輿渡御之儀ハ奉慰神慮候事ニ付曾テ故障ノ有無ニ
任セ或ハ渡御シ或ハ拜殿ニ安置致候様仕度候右之
段六區内總戸長限リ奉伺候処御掛紙ヲ以區中村々

戸長副戸長連署ヲ以テ更ニ可伺出旨被 仰出候ニ
付當區限リ各村連印ヲ以テ奉伺候以上

栗太郡第八區

神領村戸長

明治六年

三月

小幡伊兵衛

副戸長

沢田儀兵衛

大萱村戸長

稲田忠左衛門

副

本郷多兵衛

栗林新戸長

田中喜右門

御倉村戸長

齊藤善吉

橋本村戸長

村田庄二郎

副

中川政次郎

内新田戸長

山本善七

副

長野助右衛門

新濱村戸長

伊庭嘉兵衛

副

永元作右衛門

南山村戸長

大江村戸長

内田弥助

副

青山十五郎

南笠村戸長

山本仁兵衛

副

田村文藏

矢橋村戸長

草川四郎右衛門

副

芝田榮三郎

岡部權三郎

副 井上茂右衛門

岸本与左衛門

副

梅間源五郎

副

矢野傳左衛門

副総戸長

中谷小太郎

右村々総戸長

松原六大夫

滋賀縣令松田道之殿

右初度付紙ニ書面各社神祭改正村々之^{ツイエ}冗費ヲ省^{ハク}キ

候見込之趣ハ尤之事ニ候條區中村々戸長副戸長連^シ

署ヲ以テ更ニ可伺出其上可及沙汰候事

再度指令書面之趣聞置候事

○栗田郡志那村農夫^{カケラ}傍ニ養^カ豕セシニ出生後央ニ畜

セシ豕病死セシヲ料理シ食セシニ忽チ服痛甚シク
終ニ死セルヨシ是レ必ズ傳染症ナラン兼テ御告諭
モアリシトヲ鹿略ニ心得シヨリ非命ノ死ヲナス惜
イカナ慎シムベキナリ

○紋モシ驗シハ其目的ヲ示ス所為ナリ此故ニ時ノ政府ノ
紋所モシトコロヲ恐々又禁止タリ蓋シ政道武門ニ移リシヨリ
世々數代ヲ歷ルト雖モ其時ノ政府ノ紋ヲ恐レザル
ナシ又猥ヒキリニ用ヒズ而シテ恐レ多クモ 天朝ノ
御紋ヲ猥ヒキリニ用ヒ假カクシ初ニモ諸器具藥額ヤクガク或ハ佛家ニ
輕用セシハ明義ノ正シカラザル旧弊グイヤクシノ甚シキナリ

故ニ御一新已來堅ク御禁止ナリタル処今ニ諸寺院
ニハ佛殿ヲ始メ所々ニ菊ノ紋所ヒツカヲ竊ニ附置キ因循
ニシテ改メザル往々コレ有リ此等ハ御趣意ヲ辨へ
ズ因循ニ陷オチル愚僧愚檀ト云ベシ其區其町村ノ長々
ル者懇コシ示シアリ度キナリ 右投書

○或ル一夫頑固グシコニメ何莫モ人ノ云ヒ条ヲ用ヒズ己ガ
意ヲ慕ツリシ性質カタイヂナリシガ當節世情開化ニ移リ散髮
日々ニ増スヨリ其子竊ニ散髮セシヲ咎メテ曰ク頭カシ
ノミ散髮セシトテ心中開化ナラザレバ何ノ所詮カ
有ル我ハ髮旧習ト云へ臣心既ニ開化スト云其子ノ

曰ク常ニヨキ支ヲ見習ヘトノ教諭取ヅラク聞レ故
當今官員ノ衆ヨリ村長ニ及ビ散髪ナレバ善キ事ニ
隨ハント答フレバ親モ尤モナラント云レトカヤ
○協救社開業ノ始養豕忌憚ノ者多カリシニ近頃追
々弘販頻リニ田舎ニ進涉シ養牛自然ト衰ヘリト云

引札

東海道草津駅ニ於テ第三米商社一月已来開業候処
追々繁榮シ客群ニ至ル此上益盛大ヲ祈リ四方來商
ヲ冀ヒ候

草津駅

第三米商社

琵琶湖新聞第二號終

伏テ四方ノ君子ニ敬白ス既ニ官許ヲ蒙リ局ヲ開キ新聞紙ノ徳ア
ルヲ遐邑僻陬マデモ擴メ頒ナルヲ解キ僻ナルヲ改メ遠近日新ノ景
況ヲ告ゲ俱ニ開化文明ノ域ニ進マンヲ希望ス雖然耳目ノ届カザル
少シトセズ願クハ同好ニ限ラズ小大トナク其所々里巷ノ瑣事ニ至ル
マデ事書綴リ本局又ハ所々ノ取次所へ出シ玉ヘ次第ニ刊行出版ス
ベシ但遠路ハ殊ニ報知ヲ得ンヲ希フ其出シ玉フ書付ニハ何レモ其
住所姓名ヲ必ズ載セ玉ヘ無名ノ書ハ敢テ採入セズ無根ノ浮言造説ア
ルヲ恐ル

総テ望ニヨツテ出版スル事件大略

- 諸會社ニテ取扱ノ品々出入數量
- 物價ノ高低
- 新規發明ノ器械
- 諸開店ノ披露
- 田園山林家邸舟車等ノ賣買貸借
- 失物尋物

○觀セ物集會等ノ披露

○諸藝私塾開業ノ披露

○諸產物家具食品藥劑等一切ノ賣買

○金銀貸借

右ノ外総テ世間ニ弘メ人ニ知ラシメントノ事情ハ何レモ一行廿二字價三錢ニテ引受出版致スベシ

新聞紙定價一號三錢五厘 御望ノ向ハ前金ニテ二十冊ニ付二割引四十冊ニ付三割引出版次第郵便ニテ通達致スベク但郵便賃錢御規則ノ薄料ニテ通達相成ベク様御准允願ヒ奉リ候

近江國大津船頭町

本局

琵琶湖新聞會社

取次所

